Voice from the blue sea ★2

「水中ゴミ拾い」はまるでタイムトラベル?

半世紀も海に眠っていたゴミとの出会い

文・写真
東 真七水
text & photo by Manami Azuma

「スキューバダイビング×ゴミ拾い×水中ごみ拾い」を専門としたダイビングショップ「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングのインストラクターをしている東真七水です。ゴミ拾いダイビングを始めて3年、今までにさまざまなゴミを発見し、約500kgものゴミを回収してきましたが、海底には時折驚くほど古いゴミが落ちています。

沖縄の海底から推定40〜50歳と思われるゴミが出てくる

写真は2022年7月14日の水中ゴミ拾いで回収したゴミですが、その半分以上が40〜50年前に流通していたと思われるものでした。初めて見る斬新なデザイン、昔のものと分かるレトロな字体。そんな年代物を海中で発見した際は、まるで昭和時代にタイムトラベルをしたような、ロマンチックな気持ちになります。

また、海から上がり、商品について調べることも一興です。現在は流通していない500mℓサイズの大きなコーラ瓶や、タブと本体が切り離されるプルタブ式空き缶の存在など、ゴミをきっかけに飲料製品のマニアックな変遷を知りました。水中ゴミ拾いをしていなければ決して知ることはなかったでしょう。

街中のゴミが海へ、いつまでも海中に漂い続ける

一方、数十年もの間海に滞在していたにもかかわらず、比較的きれいな状態で発見されていることから、自然分解は困難とうかがえます。一説によると、分解にはアルミニウム製の空き缶で80〜100年、ペットボトルで450年、ガラス瓶で100万年の時間がかかるそうです。ちなみに水中ゴミは海に直接破棄されているものばかりでなく、7〜8割は街から来ているといわれます。道端のゴミが雨や風に飛ばされて川へ流入し、最終的に海へたどり着くのです。誰かが何気なく捨てたゴミは、その後半世紀以上漂う「海ゴミ」となってしまうかもしれません。海にゴミを行かせないためには、一人一人が足元のゴミを拾うようにすることが非常に大切です。

【参考】https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/43293/ocean_pollution/
https://www.vill.onna.okinawa.jp/sp/politics/1683856059/1683868191/

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa